

(音楽) 授業シラバス

教科	科目	単位数	学科(コース)・学年
芸術	音楽 I	2単位	学術探究科・1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	○音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を高める。		
教科書副教材等	高校生の音楽1(教育芸術社) 高校生の歌集つどい、基礎から学ぶ高校音楽MusicNote(啓隆)	授業形態	一斉授業

2 学習計画

学期	月 [週]	学習内容・学習目標	学習活動	評価の観点・方法
1 学期 [13]	4 [2]	・年間の授業の流れを知る。 《校歌》 ・校歌の歌詞の内容について学び、豊かな発声で歌う。	・授業オリエンテーション ・開邦高校校歌を、歌詞の内容を理解しながら歌う。	・以下の3つの観点をもとに評価する。 「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に学びに向かう力」 ・題材ごとに以下の評価方法をとる。 「ワークシート、レポート、ノート等の提出」 「独唱、アンサンブルなど演奏のテスト」 「ペーパーテスト」
	5 [3]	《日本の歌》 ・日本のポップスに親しみ、歌詞の内容を味わいながら工夫して歌う。	・歌唱教材の日本歌やポップスを歌う。	
	6 [4]	《リズムアンサンブル》 ・リズムの構造を理解する。 ・身体を使ってリズムを奏でアンサンブルを楽しむ。	・グループを組み、様々なリズム・パターンを習得する。 ・身体の一部を使ってリズムを奏で、リズムの組み合わせ方で様々な音楽に変化することを知る。	
	7 [3]	《楽典》 ・音名、譜表、音符と休符、拍子について理解する。 《世界の音楽・イタリア・ドイツ歌曲》 ・世界の音楽に触れ、各地域の特徴を理解する。 ・発音の特徴を知り、原語で歌う。 ・曲や詩の持つ背景を感じながら表現に工夫して歌う。	・音楽研究ノートを活用し、楽譜の基礎を学ぶ。 ・それぞれの地域の音楽の違いを、発音などに気をつけながら工夫して表現する。 ・それぞれの音楽の違いを文化・民族・環境の違いに関連付け、総合的に音楽を捉える。	
	9 [4]	《日本の音楽/西洋の音楽》 ・西洋の音楽と日本の伝統音楽の歴史を辿りながら、その特徴を理解する。 ・三線の特徴、調弦、奏法、楽譜、楽曲などを実技を通して学び、郷土の音楽文化の豊かさを理解する。	・ワークシートを使用し、西洋の音楽と日本の伝統音楽の歴史や特徴を知る。 ・西洋の音楽と日本の伝統音楽の作品を鑑賞し、それぞれの良さを感じ取る。 ・郷土楽器の名称と扱い方、演奏姿勢などの基本奏法を学習する。 ・工工四の読み方を習得し、郷土の民謡や沖縄のポップスを演奏し、三線で演奏できる曲のレパートリーを増やす。	
2 学期 [15]	10 [4]	《楽典・鑑賞》 ・音階、コードについて理解する。	・音楽研究ノートを活用し、楽譜の基礎を学ぶ。	
	11 [4]	《アジアの音楽》 ・アジアの音楽の特徴を理解する。	・アジアの音楽の作品を鑑賞し、その良さを感じ取る。	
	12 [3]	《コーラスを楽しもう》 ・コーラスアンサンブルを通してハーモニーの美しい響きを感じながら歌う。	・楽曲構成や音楽記号を理解しながら、ハーモニー作りやアンサンブルの工夫を行い、表情豊かな合唱ができる。	
3 学期 [8]	1 [3]	《卒業式の歌》 ・合唱の醍醐味を味わい豊かな表現を工夫する。	・各パートのハーモニーの重なりを聴きながら、卒業のうたを気持ちを入れて歌う。	
	2 [3]			
	3 [2]			

週数35 × 2単位 = 70時間

《履修上の注意点》

- 中学校の音楽の学習に比べ高等学校では、「自分で学ぶ」という場面が多くなります。生涯、音楽を愛好するためには、音楽を「自ら学ぶ」態度と方法を身につける事が大事です。高等学校ではその基礎となる学習場面がたくさん用意されているので、積極的に取り組み、「探求心」を持って自分の音楽的視野を広げて下さい。
- 発表が中心となるので、計画性が求められます。着実な準備を心がけましょう。
- 「音楽ノート」や「ワークシート」などの提出物があります。ていねいに記入すること、期限を守ることが大切です。